



AUE News

2011年10月1日

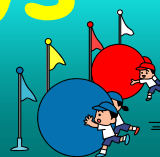
第 25 号

編集・発行

愛知教育大学広報部会

TEL 0566-26-2738

FAX 0566-26-2500



目 次

- 省エネニュース@愛教大
- 行事予定(10月1-15日)
- トピックス
 - ・公開講座「チャレンジング・スポーツ」
 - ・保護者懇談会を開催
 - ・陸上部中野弘幸さんが安城市長を表敬訪問
 - ・台風襲来で緊急通知
 - ・火災消火活動に感謝状贈呈
 - ・河合塾で折出理事が本学説明
- ・東海地区国立大学の事務連携調印式
- ・CBC ラジオが地下水浄化システムを生中継
- ・理科実験プレ教員セミナー
- ・9月卒業・修了式
- 教育復興支援学生ボランティア報告
- ・第3陣第6期派遣
- お知らせ・報告・投稿
- ・学生FDサミットに参加
- ・「プレジデント」大学ランキングに本学ランクイン
- ・催しもの案内

省エネニュース@愛教大

2011 年度愛知教育大学緊急節電対策の啓発活動として、「AUE News」で省エネに関するニュースをお知らせします。今回はNo.7(作成は「省エネワーキンググループ」)です。皆さん、引き続き、節電にご協力ください。

NO7 エレベータでも省エネを！

エレベータ可動実績(回数/月:参考)

第一人文棟約14,000回/月	障害児教育棟約40回/月
自然科学棟西約14,000回/月	本部約1,000回/月
情報処理センター約1,400回/月	第二共通棟約1,300回/月
第一共通棟約2,900回/月	美術技術家政棟約4,800回/月
附属図書館約400回/月	

計39,840(回/月)

エレベータも「省エネ」設備を採用しています！



エレベータ機械室

「回生電力」を生かし、消費電力30%削減！
「ハイブリットカー」と同じ機構です！

●エレベータ「省エネ」のポイント

①なるべく階段を使用して下さい。

「健康維持」と「省エネ」のためにも階段で！

②構内エレベータの電力使用量は、約13万kWh/年です。(全体電力使用量に対する割合約2%)
使用回数を減らすことが、「省エネ」につながります。



行事予定(10月1-15日)

- 3日(月) 評価委員会(13:30～ 学長室)
- 4日(火) 役員部局長会議(13:00～ 学長室)
- 5日(水) 情報システム委員会(10:00～ 第五会議室)

- 教務企画委員会（13：30～ 学長室）
 学生支援委員会（13：30～ 第五会議室）
 大学改革推進委員会（15：30～ 第三会議室）
 7日（金） 役員会（13：00～ 学長室）
 12日（水） 教育創造開発機構委員会（9：30～ 大学会館中集会室）
 教職大学院運営協議会（10：30～ 第五会議室）
 代議員会（13：30～ 第五会議室）
 教育研究評議会（代議員会終了後 第五会議室）
 14日（金） 安全衛生委員会（16：30～ 第五会議室）

トピックス

公開講座「チャレンジング・スポーツ」(9/14,28,10/5,12,19)

小学生を対象にした公開講座「チャレンジング・スポーツ」が9月14日から毎週水曜日の午後4時～6時、本学の体育施設で開催されている。



本学主催の同講座は、子どもたちに幅広く様々なスポーツを体験してもらおうと新設したスポーツ教室で、全5回。対象は小学1～3年生。陸上競技に含まれる走・跳・投の運動、サッカーやハンドボールなどのボール運動、ダンスをはじめとする表現運動などで、ジュニア期の指導のノウハウを持つ本学保健体育講座の教員らが監修した運動プログラムを実施するもの。

このうち、9月28日は「陸上運動へのチャレンジ」がテーマで、10人が陸上競技練習場に集合。木越清信講師の指導で、準備体操、50m走などに挑戦した。トラックに置いたカラーリングの上を走る練習は、輪の中で足を素早く入れ替えることで走りが速くなるというもの。子どもたちはアシスタントの学生と一緒に、ゲーム感覚でリングの上を早足に通り抜けて、大はしゃぎ。続く50m走では、全力疾走。走った後は、その様子を録画ビデオでフィードバック、付き添いのお母さんたちと動きをチェックし、何度も飽きることなくトラックを往復していた。

木越講師は「いろんなスポーツを体験してもらい、いろんなところを鍛えてもらうのが狙い。少人数できめ細やかな指導ができて、子どもたちの反応は非常に良かったです。お母さんたちには指導のポイントも伝えて、興味を持ってもらえました。私自身も楽しかったです（笑）」と手応えを得た様子。「来年は、水泳など他の種目を取り入れたり、人数を増やすなどして、さらに幅を広げた内容にしていきたい」と抱負も語った。



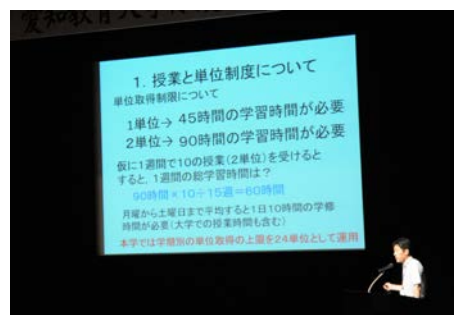
保護者懇談会を開催(9/18)



本学の教育や運営の現状を学生・大学院生の保護者に直に伝える「保護者懇談会」が9月18日（日）、名古屋駅前のウインクあいちを会場に開かれた。同懇談会は本学としては初めて。

この日は名古屋会場だったが、10月23日（日）も学内で開催。初回の同日は保護者計239人が来場。午後1時30分から受付を開始し、出席確認と同時に、あらかじめ成績通知の申請のあった保護者には成績の入った封書が手渡された。

第1部は大ホールでの全体会で、総務課の濱田泰栄課長の司会で進行。松田正久学長をはじめ理事、学系長など役員が紹介された後、松田学長は「本日は国立大学の現状を理解し、支援していただくのが目的。さらに皆様の声を聞きながら、“学びがいのある・学びたい大学”であり続けるよう運営していきたい」と述べた。続いて、岩崎公弥理事が教育について、都築繁幸理事がキャリア支援と学生支援について、宮川秀俊国際交流センター長が国際交流について、それぞれ本学の現状を説明した。休憩時間には松田学長が保護者に話しかけ、家庭での学生とのやり取りや、大学への要望などを聞いて回り、親しく懇談する姿も見られた。



第2部は教員養成課程、現代学芸課程、大学院と3会場に分かれて説明会が行われた。教員養成課程では、後藤ひとみ教育科学系学系長、中田敏夫人文社会科学学系長が進行役となり、保護者の質疑応答が繰り広げられた。「1, 2年の実習は講義を休んで行かなければならず、心配だと子どもが言っているが、どうにかならないのか」「公務員希望者への就職セミナーはないのか」「教育実習で現場の先生が大変なのを見て子どもが不安になった。大学でフォローしてもらえないのか」「成績の開示は学生の同意がないとできないことに違和感がある。個人情報保護法がどこを向いているのか」など学生生活に関する多様な質問が投げかけられ、両学系長や担当役員、事務職員などが説明に当たった。ほかの2会場でも同様に質疑応答が行われ、終了予定の午後4時40分まで活発なやり取りが行われた。

また、10月23日の本学開催の際は、大学の現状説明のほか、担当教員による個別懇談が実施され、500人を超える保護者の来場が見込まれている。

陸上部中野弘幸さんが安城市長表敬訪問(9/20)



8月に中国・深圳市で開かれたユニバーシアード競技大会の陸上男子1600mリレーで銀メダルを獲得した陸上部の中野弘幸さん(大学院教育学研究科保健体育専攻1年、写真右)が9月20日(火)、在住する安城の市役所を訪れ、神谷学市長に成果を報告した。

神谷市長から「大変な快挙を達成し、おめでとう」と祝福された中野さんは銀メダルを披露し「体調管理に苦労しましたが、リレーの第一走者として満足のいく結果が出せました」と大会を振り返った。選手村で

はシャワーのない3人部屋で過ごし、食中毒を恐れ、食堂の食べ物以外口にできなかったなど、日本とは大きく異なる生活環境の中で結果を出すことの大変さを味わった苦労などを打ち明けた。

また、今後の目標について「来年のロンドン五輪出場を目指して、努力したい。将来、小学校の教員になり、子どもたちに運動の楽しさを伝えたい」と話した。神谷市長からは「ぜひ、二つの夢をかなえてください。世界に通用する選手になることを期待しています」と激励の言葉が贈られた。(写真は安城市提供)

台風襲来で緊急通知(9/21)

台風15号が東海地方に接近した9月21日(水)午前、愛知県に大雨洪水暴風警報が発令され、本学でも学内の学生や教職員に帰宅を促す緊急通知を学内放送などで伝えた。

午前9時ごろ、松田正久学長が理事らを学長室に召集し、台風への対処を話し合った。その結果、学生や教職員に帰宅を呼び掛ける通知を学内放送で発信すること、同日開催予定の委員会等はすべて延期することを決定。

「直ちに帰宅してください」「大学にいる方が安全を確



保できると判断できる場合は学内に待機してください」などと放送し、同様に大学ホームページにも掲載して、多くの学生や教職員がこれに従った。

この後、しばらく風雨が強まったが、午後3時過ぎには台風はこの地域を通過。松田学長や理事、施設課職員が学内を点検に回ると、風雨で木の枝が折れたり、駐輪してあった自転車が倒れるなどはあったものの、幸い大きな被害は見られず、夕方には通常の状態を取り戻した。

火災消火活動に感謝状贈呈(9/22)

8月に学内で発生した火災の消火活動をした学生と生協職員への感謝状の贈呈式が9月22日(木)、午前10時30分から、学長室で行われた。

火災は8月8日(月)午後1時28分ごろ特別支援学校教員養成課程学生控室のプレハブで発生。その際、建物近くを偶然通りかかった学生らが消防に通報し、最寄りの建物にいた生協職員が消火器を手に初期消火に当たった。その後、消防隊が駆けつけて沈火。平屋建てプレハブ88㎡は全焼した



ものの、負傷者はなく、周囲へ延焼することもなく、被害を最小限に食い止めた。

表彰者は次の皆さん。内之倉大作さん(初等・数学選修3年)、長田浩一さん(初等・社会選修2年)、田中僚一さん(情報科学コース2年)、生協職員の村松太郎さん、井原義春さん。

贈呈式では、松田正久学長が感謝状と記念品を手渡し、表彰者は緊張の面持ちで受け取った。松田学長は「皆さんが早期発見してくれたことで、被害が広がらず、大変助かりました」とお礼の言葉を述べると、村松さんは「あの時は煙を見て、夢中で走り出し、火を消そうとしました。大きな火災にならずよかった」と当時の模様を振り返った。その後、関係者が懇談し、写真撮影を行い、贈呈式は終了した。



河合塾で折出理事が説明(9/25)

9月25日(日)、名古屋市内の河合塾千種校北館において、国立12大学入試広報連絡会の主催による「国立大学合同進学説明会」が行われました。愛知県内4国立大学の他に、静岡、浜松医科、信州、富山、金沢、福井、岐阜、三重の各国立大学(プログラム順)が参加しました。

本学の説明は、トップの名古屋大学の後を受けて午前11時から20分間の枠で理事・折出が担当しました。「教員養成で何をどう学ぶか 愛知教育大学からのメッセージ」と題してパワーポイントを使いながら、まず「なぜ、大学に行くのか」と問いかけ、「『これが好きだから行く』という、あなたならではのものを大事に。偏差値、大学名がすべてではない。『何をしたいか』が、あなたにとっての大学の決め手。人生の中で、『自分の成長のため



ために使える唯一の時間』が大学生活だ」などと述べ、さらに「大学で何が身につくのか」として「個々の存在・現象、その本質、これら存在・現象と本質を統合してつかむ概念。この三点セットが、人生を、仕事を切り開く上でとても大切で、子どもを多様に理解する職業である教職にとって実際の基礎となって働きます」と述べました。

これに続いて、理事は、本学の歴史、教員養成課程・現代学芸課程の特徴、訪問科学実験などの地域連携で学生たちが自主的に学外で活躍する姿にもふれた後に、2012年度入試の変更点等を述べて、「教員養成を主軸に教養教育を重視する愛知教育大学にゼ

ひチャレンジしてください」と締めくくりました。

今後、10 月以降も、上記の合同説明会に本学としては可能な限りブースを出して入試説明に当たる予定と聞いております。
(総務担当理事 折出健二)

東海地区国立大学法人事務連携調印式(9/27)

9 月 27 日(火)午後 2 時 30 分から名古屋市昭和区の名古屋大学鶴友会館において東海地区国立大学法人の事務連携に関する協定書の調印式が行われた。

この協定は、岐阜大学、静岡大学、浜松医科大学、名古屋大学、愛知教育大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、三重大学の東海地区に所在する 8 大学が、その基盤を支えている事務部門の連携を図るため、ネットワークを形成し、それぞれの個性・特色を活かして優れた教育研究・社会貢献活動を一層積極的に展開していくことを目指し、締結された。具体的な協議は東海地区国立大学法人学長をメンバーとする東海地区国立大学法人事務連携協議会で行われる。



調印式では、8 大学の学長が協定書を取り交わした。8 大学を代表して名古屋大学の濱口道成総長が事務連携の趣旨を説明し、「単に無駄をなくし、効率を良くするというだけで集まったわけではない。主要な産業が集まる東海地区は非常に重要な地域。優秀な人材を育てる使命がある。法人化後は苦難の道のりを歩んでいるが、今後どのような大学像を描いていくか、個々の大学だけで悩むのではなく、東海地区の国立大学が相談しながら一緒に歩いて行くことが重要。『活力』



が上がるような連合体になるようにしたい。8 大学集まればスーパーコンピューターのような機能が果たせるはず」と本ネットワークへの思いを語った。本学の松田正久学長も「次代を担う子どもたちを育てる教員は重要で、本学は教員養成の役割をきちんと果たしていく必要がある。8 大学が連携し、それぞれ強いところを伸ばし、弱いところを補い合って進めていきたい。各大学の特色・機能を活かしながら、まずは事務連携からはじめ、日本全国モデルとなるようにしたい」と有機的な連携に向けた意気込みを語った。

当面は、事務事業の中から「研修」、「調達」などの 12 の項目について連携に向けた検討を行い、来年度、可能なものから順次具体的に実施に移していくこととしている。
(総務課長 濱田泰栄)

CBC ラジオが地下水浄化システムを生中継(9/29)

本学の地下水浄化システムが、CBC ラジオで 9 月 29 日(木)朝、生中継で紹介された。

番組は同局の「多田しげおの気分爽快!! 朝から PON」。東海地方の人や地球に優しい取り組みやエコ活動を生中継で紹介するコーナー「CBC ラジオ グリーンマップ」で中継を、と取材依頼が寄せられた。

この日は午前 7 時ごろにレポートドライバーの山田由梨奈さんと大嶽由香里さんが来学。施設課職員の案内で地下水浄化プラントを訪れ、アンテナの設置など放送設備の準備や進行の打ち合わせを開始。放送は午前 8 時 15 分からの約 4 分間で、浄水プラントを設備した理由や、利用の仕方、節約効果などを松田正久学長にインタビューした。プラントで浄化して飲料水にもなることから、コップに水をついで、山田さんも試飲し、「おいしい水ですね」と味わい、生中継は無事に終了した。

放送の内容や取材の様子は CBC ラジオの番組ホームページでも紹介されている。



理科実験プレ教員セミナー(9/29、30)

来年から新たに小学校教員になる予定の学生を対象にした「第5回理科実験プレ教員セミナー」が9月29日(木)、30日(金)に自然科学棟で開催された。

理科の指導への不安解消に役立ててもらおうと、小学校教員として知っておかなければならないことに焦点を絞り、実験・観察を中心に内容も実践的。来年度から教員になる学生のほか、3年生以下でも理科に自身のない学生やより深く学びたい学生も受講できる。29日は物理と地学、30日は化学と生物の実験講座が開かれ、単独の講座でも受講が可能で、今回は学部の4年生を中心に延べ13人の学生が参加した。



30日午前の化学実験講座には、10人が参加。稲毛正彦教授が「硫酸銅の合成」をテーマに指導し、学生たちは化学薬品と器具の扱い方を学んだ。合成した硫酸銅の色の濃さの違いは、粒が細くなるほど白っぽくなることも観察し、携帯電話のカメラで撮影する姿も。来春から小学校教員になるという家庭科選修の学生は「こういう実験は経験がなかった。器具の使い方などを分かりやすく教えてもらえて、参加してよかった」と目を輝かせた。

同日午後の生物実験講座は「植物の観察の基本」と題して、光学顕微鏡の使用法と細胞の観察を実習。加藤淳太郎准教授の指導で、ネギやニラを教材にして葉の気孔を観察して裏表を判定。加藤准教授は「光学顕微鏡は生物の実験で一番よく使うけれど、使い方を忘れてしまうので」と繰り返し使用するようアドバイス。学生はプレパラートの使い方、カメラでの撮影などを実習し、「身近なものですぐに教材を作れたのもよかった」と感想を口にした。



9月卒業・終了式(9/30)

2011(平成23)年度の9月卒業・修了式が9月30日(金)午前10時30分から、本部棟第五会議室で行われた。

卒業・修了を迎えたのは学部卒業者13人と大学院修了者5人の計18人。うち、この日は15人が出席した。

濱田泰栄総務課長による開式の辞で式が始まり、続いて学位記の授与。卒業生・修了生は一人ずつ名前を読み上げられ、松田正久学長から学位記を受け取った。



告辞として松田学長は「いろいろな事情がありながらも本日卒業・修了を迎えられた皆さんに心からの祝福を贈りたいと思います」と述べ、東



日本大震災、福島原発の事故にもふれ「これからの社会を担っていく卒業・修了生の皆さんに、わが国、世界のエネルギー政策がどうあるべきか、もう一度考えていただきたい」と訴え、「今後の皆さんの活躍が日本や世界を支え、変革する力になると確信しています。ご活躍を祈念いたします」などと、期待を込めてはなむけの言葉を贈った。

卒業する学部生を代表して、小田太郎さん(中等・国語専攻)が「この2カ月間、被災地で活動。多くのものを失ったのがこの震災です。悲しみの中から私たちが得たことを、今後、社会で生かしていきたい」などと社会への貢献を誓った。また、修了生代表の塚原薫さん(大学院教育学研究科芸術教育専攻)も「資料館に勤めながら、学位を取得。

この学位を今後の生活に生かしていきたい」と述べ、式は終了した。

教育復興支援学生ボランティア報告

第3陣第6期派遣

本学としては第3陣となる第6期派遣チームは学生1人（富田祥弘さん、大学院教育学研究科理科教育専攻・2年）と私の2人でした。9月4日（日）夜、名古屋駅を夜行バスで出発し、9月5日（月）から9日（金）まで、宮城県岩沼市の玉浦中学校で活動してきました。玉浦中学校は、仙台駅から南へ約15km下った場所にある、全校生徒数約150人のとても落ち着いた雰囲気の中学校でした。到着した初日、教頭先生が震災によって被害を受けた地域を、我々に案内してくれました。玉浦学区は周りを田畑や住宅地に囲まれた、のどかな農村地帯の中に、大きな工場や仙台空港を擁する、海沿いの閑静なエリアです。そのほとんどの田畑は塩害により作付けができず、荒れたままになっていました。場所によっては瓦礫や、海岸の松林から流されてきた流木が放置したままの場所もあります。津波がもたらしたこの学区の惨状は、想像を絶するものでした。

「このエリアは昔からの集落があって…」と指をさされた方向は荒涼とした平原が延々と続いていました。未だ電気が復旧していない地区もあり、信号機が動いていない場所は、全国から警察官が応援に来て、交通整理をしていました。あれから半年が過ぎたにもかかわらず、未だ復旧さえしていない現状に、復興の道のりの遠さを、実感いたしました。震災により仕事や住むところを無くした家族はこの地を去り、生徒数も減ったとのことでした。未だに仮設住宅から通っている生徒も多く、今までとは違う住環境でのストレスから、家族の関係もギクシャクし、勉強どころではない生徒もいるようです。また、家族や友人を無くした悲しみに、今なお苦しんでいる生徒も多いとの事でした。

我々が、授業の教務補助として滞在した5日間では、その苦しみをうかがい知ることはできませんでしたし、学生はみな元気で、そんなそぶりも見せませんでした。しかし、家に帰ると、まだ日常を取り戻せず、多くの問題を抱えているケースが多いのが現状です。

被災地の教育現場では、日常を取り戻すため、先生方が一生懸命、生徒と向き合って頑張っていました。今回のボランティアは5日間と短期間でしたが、長い時間をかけたサポートが必要なのだと感じました。今後も継続した支援が望まれます。（美術教育准教授 佐々木雅浩）

お知らせ・報告・投稿

学生FDサミットに参加（報告）

◆愛教大の学生FDはどうあるべきなのか～学生FDサミット・2011夏に参加して～

FDとはなんぞや？Food & Drink か？と尋ねる人もいると思うので簡潔に述べると、FDとは大学の教育をよくしようとする活動であり、学生FDとは学生を主体としたFDである。



私は8月27、28日に立命館大学で開催された、「学生FDサミット・2011夏」に参加し、本学の学生・教職員参加型FD組織あいこね（正式名称：愛教大CoNandE委員会）の活動発表を代表校の一つとして行った。

また、他大学の活動内容の報告を聞き、日本全国の大学でFD活動をしている学生に会い、様々な刺激を得ることができた。各大学の報告から、愛教大にも生かせることをこれから実行していきたい。しかしそれにはよく議論した後に実行し、試行錯誤をしなければならないと切実に感じた。

例えば東洋大学は、学生・教員・職員が学生生活や大学の抱える問題について一緒に話し合う「交流会（しゃべり場）」を定期的で開催している。参加者全員で話し合うメインテーマを「授業をはじめとする学生生活を充実させるには」「授業中のマナーについて」「どんな授業が良

い？」といったものに設定してきたという。しかし愛教大でこの企画を行う場合は、愛教大生が考える大学の問題に焦点を当てたメインテーマにしなければならないと思う。それを考え、提案していくのがあいこねの役目だろう。

もう一つ感じたのは、各大学の教職員の FD に対する意識の違いだ。特に私立大学において FD 活動は重要視されているように感じた。それはやはり様々な学生が通い、国公立大学よりも高い学費を払っている以上、教育の質を上げたいという気持ちが強いのだろう。スタートはどのようなことであっても、それらは FD の理念に繋がる。

では、愛教大生の FD に繋がる問題意識をどう集めるのか。学生・教職員が様々な視点から、学教育をよりよくするために何ができるのか。あいこねの活動を通じてそれらを探りながら、積極的に活動を行ってきたい。

(あいこね学生スタッフ 国際文化コース 2 年 村田菜摘)



「プレジデント」大学ランキングに本学ランクイン(お知らせ)



雑誌「プレジデント」(プレジデント社) 2011.10.17 号に、就職をはじめとする各項目別にみた全国の国立・公立・私立大学ランキングが特集されています。この記事に愛知教育大学が掲載されました。本学は、全国の「就職率ベスト 40」の中に入っており、第 13 位。同じく全国の「地方公務員試験に強い大学」で、日本大学、北海道教育大学に次いで第 3 位。「社会福祉士試験に強い大学」では 11 人受験で全員合格の 100%で第 1 位にあがっています。「社会福祉士試験」については、日頃から学生に丁寧な指導をしている旨の、本学現代学芸課程臨床福祉心理コース・増田樹郎教授の談話が載っています。

愛知教育大学がこうしたランキング上位に名を連ねたこと自体は評価して良いと思います。これも元をたどれば、平素からの教職員と学生のさまざまなご努力の賜です。お礼を申し上げます。

(総務担当理事 折出健二)

催しもの案内

◆白洲正子主義展 (古橋尚コレクション)

10 月 20 日 (木) ~ 25 日 (火) 10 : 00 ~ 17 : 00 入場無料

刈谷駅前商店街「駅前ギャラリー スペース A q u a」

同商店街と本学の連携事業「UNOセクション」第 6 弾。

古橋氏が白洲正子とかかわった自筆の手紙、原稿、出版書籍、白洲流骨董などを展示。10 月 22 日 (土) 13 : 00 ~ 14 : 00 「白洲夫妻を語る特別対談『ソアラの縁』」を開催。元トヨタ自動車ソアラ開発責任者の岡田稔弘氏を迎え、古橋氏と白洲夫妻のエピソードを語る。参加無料、事前申し込みが必要。

問い合わせ : TEL 0 5 6 6 ・ 2 3 ・ 2 4 8 8

◆第 3 回愛教大アカデミックカフェ

10 月 20 日 (木) 17 : 15 ~ 19 : 00 入場無料、一般参加も可能

本部棟 3 階 第五会議室

講師 : 中島晴美教授 (現代学芸課程造形文化コース)

演題 : 「やきものの造形」 造形としての「やきもの」について講演。

問い合わせ : 秘書広報課広報室 TEL 0 5 6 6 ・ 2 6 ・ 2 7 3 8

E-mail : kouhou@m. auecc. aichi-edu. ac. jp

編集後記

後期授業が始まり、秋も日ごとに深まっています。この秋のマイブームは「本」。なかなか 1 冊を読破できない私ですが、週末に友人が主催したお薦め本の交換会に参加。カフェの一角で 10 人ほどが集い、事前に決められたテーマ（この回は「ロックな主人公」「初体験」「疲れた時の一本」）に沿った本を各自が持ち寄り、それぞれ持ち主がプレゼン。いつも本の趣向が偏りがちですが、ここでは「へ～っ、こんな本があるんだ!」「面白そう!」と思わぬ出会いがあって、素敵な企画でした。この日の成果は動物行動学と料理、小説の 3 冊。秋の夜長、未知の世界にとっぷりと浸るのが楽しみになりそうです。(K)

投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール:kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者:総務担当理事 折出 健二